

# ふくい春まつり魅力向上検討委員会 報告書

地域住民が参加し、楽しみ、愛する  
誇りとなるまつりを目指して

平成29年9月

福井商工会議所

## 目次

はじめに	1
<b>第1章 ふくい春まつりの開催実績と現状</b>	<b>3</b>
1. 「祭り」とは何か	
2. ふくい春まつり、越前時代行列	
(1) 開催の目的・背景	
(2) これまでの変遷	
(3) 現在の開催事業	
3. 越前時代行列の現状	
(1) 第32回（平成29年度）の隊列編成	
(2) コースと内容	
(3) 行列当日の関連事業（行事）	
4. 他県の武者行列の事例	
(1) 各地事例紹介	
(2) 第66回金沢百万石まつり視察報告	
<b>第2章 ふくい春まつりの課題と改善</b>	<b>20</b>
1. 課題	
(1) 開催目的の再確認	
(2) ふくい春まつりの全体イメージの向上	
(3) 福井オリジナルの桜	
(4) 全国の時代行列との差別化	
<b>第3章 ふくい春まつりの魅力向上プラン</b>	<b>22</b>
1. ふくい春まつりの目的とコンセプトの再定義	
(1) 目的	
(2) コンセプト	
2. まつりの魅力向上に向けた「ふくい春まつり」リニューアル案	
(1) ふくい春まつりの名称の変更	
(2) 会期の変更	
(3) まつりのコア事業の魅力向上	
(4) 広報の拡充	
おわりに	33
検討委員会開催記録・委員名簿及び検討経過	34

## はじめに

昭和61年に九十九橋の完成記念事業として始まった「ふくい春まつり」も32回目を迎え、今年も3月25日から4月24日の1カ月間にわたり盛大に開催された。福井市の春の風物詩として市民にも定着し、開催期間中には、歴史、文化、食、自然を楽しむ様々なイベントが開催され、街なかに賑わいをもたらしている。

しかしながら、現状の「ふくい春まつり」は、毎年趣向を凝らしたイベントが催されているものの、本来の目的であるはずの観光誘客機能は弱く、メインイベントである越前時代行列にもマンネリ化の声が聞かれ、魅力あるまつりへの再構築が求められている。

そこで、当所 観光産業・文化委員会では、観光、商業、交通、メディアなど、まつりに関連する委員を中心とした「ふくい春まつり魅力向上検討委員会」を設置し、3回の会議と視察等を通じて、ふくい春まつりの魅力向上に向け議論を重ね、報告書にまとめた。

本報告書は、「ふくい春まつり」はまつりの原点に立ち返り、まずは地元住民が参加し、楽しめるまつりづくりに取り組み、徐々にその魅力を高め、ひいては県外誘客の柱となるよう具体的な取り組みを示したものである。間近に迫った北陸新幹線の福井開業時には多くの県外観光客が福井に訪れるよう、「桜」と「越前時代行列」をまつりの核に、福井市でしか見られない、体験できないまつりとなるよう提案している。

最後に、業務多忙の中、本検討委員会に参加し、積極的なご意見をいただいた委員やオブザーバー各位に深く感謝申し上げます。

福井商工会議所 観光産業・文化委員会  
ふくい春まつり魅力向上検討委員会  
委員長 野坂 鐵郎



# 第1章 ふくい春まつりの開催実績と現状

## 1. 「祭り」とは何か

祭りは本来、人々が神や先祖、自然等との繋がりの中で、感謝や敬意を示すための催しであり、全国にはそれぞれの地域の風土、文化、生活に根付いた多種多様な祭りが存在する。かつては、その多くは地域内の神事や祭礼、また風俗習慣として、地域コミュニティを中心に行われていたが、今や地域の観光資源として、非日常の体験を求める人々を地域外から呼び寄せている。その結果、地域内には人々の交流が生まれ、経済的にも精神的にも活性化している。

また一方で、神事、祭礼的な祭りではなく、観光客目当てや地域住民の楽しみとして始まった、「イベント的な祭り」も各地に存在する。しかし、イベント的な祭りといえども、そこには何らかの形で地域の歴史や文化が登場し、長い歴史の中で、神事・祭礼と同じように地域住民から愛される祭りも多く、地域住民の誇りとなっている。

このように各地の祭りが、地域特有の文化を発信するものとして観光化を図る中、「ふくい春まつり」も地元住民の積極的な関わりのもと、地域住民の精神的な盛り上がりや、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る役割が求められている。

## 2. ふくい春まつり、越前時代行列

### (1) 開催の目的・背景

福井市の中心部を流れる足羽川にかかる九十九橋は、かつて福井市の中心部にあった北の庄を治めていた戦国武将柴田勝家が架けた橋である。一説によると、この橋は敵の襲来に備え、いつでも橋を落とせるよう半分を木、半分を石で作られ半木半石の名橋、奇橋として名高い。この九十九橋は、昭和59年から架け替え工事が行われ、昭和61年に完成した。「九十九」の名は長寿につながるめでたい名前として、完成記念イベントが行われ、福井市、福井商工会議所の協力のもと、福井市観光協会の強いリーダーシップにより、「九十九橋三代夫婦渡り初め」をはじめ、「長寿もちつき大会」、「足羽河原鯉のぼり1,000匹吹き流し」などとともに、第1回となる「越前時代行列」が盛大にとりおこなわれた。このイベントでは、地元の武将や偉人が登場する歴史絵巻として、武士やお姫様などの衣装をした市民が九十九橋を出発し、呉服町→さくら通り→片町→本町→駅前→北の庄→県庁と勇壮華麗に隊を進め、この九十九橋の完成を祝った。

当時、全国各地でこうした時代行列は行われており、福井市においても新たな観光資源として、その後も継続して行われ、コースや隊列をその都度変えながら、現在に至っている。

## (2) これまでの変遷

ふくい春まつりは、昭和61年を第1回にこれまで32回を数える。しかしながら、歴史的にはそれ以前からも、「ふくい桜まつり」という名称で足羽川・足羽山のぼんぼり点灯などの事業が、越前時代行列とは別に行われていた。その後、平成14年より越前時代行列とこのふくい桜まつりが統合されて、現在の「ふくい春まつり」に至っている。

当初の時代行列では、柴田勝家役や松平春嶽役には福井市長、福井商工会議所会頭が、またお市の方には一般市民が扮していた。また、新田義貞、朝倉義景、結城秀康など地元ゆかりの武将を大将とする各隊は、地元企業の参加のもと実施されていた。

その後、福井市の観光資源として県外からの集客効果を高めるために、平成4年の第7回から主役である柴田勝家役に男性俳優を起用し、最初の勝家役に俳優の田中健氏を招聘した。その後の勝家役を務めた俳優は、表1の通りである。

お市の方役については、福井市キャンペーンレディとして昭和63年の第3回から公募され、その年もキャンペーンレディがお市の方役を務めていた。しかし、平成21年からは勝家役同様に女優を抜擢し、初代のお市の方役には、宝塚出身の大地真央氏が務めた。これ以後は、勝家、お市の方役に男性と女性の2名の俳優を招聘している。開催時期は、当初はゴールデンウィーク中となる4月下旬、もしくは5月上旬であった。現在に至るその間には、他の地域の時代行列と差別化するために昼過ぎに出発し、ゴールの九十九橋河原には篝火（かがりび）の中を到着するように演出された年もあった。しかし、この時期は天候に恵まれないことも多く、季節的にも参加者には寒さが厳しいため、夜の開催は取りやめ、武将の生き方と桜の咲き様が日本人の心情に合うこともあって、16回目となる平成13年からは桜の時期に合わせて設定された。近年では4月の上旬の土曜日に開催されることが多い。しかし、温暖化の影響もあってか、桜の開花時期が年々早まっており、最近では時代行列と桜の開花時期がずれてしまうことも多くなってきている。

また、コースについても、様々な課題をクリアすべく、何度か変更されている。開催当初は、福井駅前を出発し、本町通りを通過して、九十九橋をゴールにしていたが、その後は、福井県庁からNHK通り→桜通り→呉服町通り→九十九橋というコースや、福井県庁→福井駅前→本町→九十九橋、県庁→さくら通り→フェニックス通り→福井駅前→県庁といったコースなどもあった。今年、県庁をスタートし、街路の整備が完了した県庁線、中心市街地のランドマークとなるハピリン前を通過して、そごう・西武前から本町を抜けて九十九橋へ向かうコースとなった。

この他、関連事業として、これまで鯉のぼり千匹吹き流し、長寿餅つき大会、足羽川での遊覧船、観光周遊バス、隣人まつりなど様々な事業が行われてきた。

【表1】 ふくい春まつり「越前時代行列」推移一覧表

項目	第1回 (昭和61年)	第2回 (62年)	第3回 (63年)	第4回 (平成元年)	第5回 (2年)	第6回 (3年)	第7回 (4年)	第8回 (5年)	第9回 (6年)	第10回 (7年)	第11回 (8年)	第12回 (9年)	第13回 (10年)	第14回 (11年)	第15回 (12年)	第16回 (13年)	第17回 (14年)					
開催日	5/10(土)・11(日)	5/9(土)	4/28(木)・29(祝)	5/3(祝)・4(休)	5/3(祝)・4(休)	5/3(祝)	5/2(土)	4/29(祝)	4/29(祝)	4/28(日)・29(祝)	4/28(日)・29(祝)	4/28(日)・29(祝)	4/29(祝)	4/29(祝)	4/28(日)・29(祝)	4/14(土)・15(日)	4/13(土)・14(日)					
コース	九十九橋～呉服町～片町～西武～北の庄～駅前南～県庁	プラザ～フェニックス通り～さくら通り～呉服町～本町～西武～県庁	九十九橋河川敷～九十九橋～呉服町～さくら通り～県庁～西武	県庁～日本たばこ～さくら通り～呉服町～九十九橋～九十九橋河川敷	同左	同左	県庁～日本たばこ～さくら通り～フェニックス通り～西武～中央郵便局～県庁	同左	県庁～駅前電車通り～フェニックス通り～さくら通り～呉服町通り～九十九橋～足羽川左岸河川敷													
参加人数	520名	712名	824名	852名	846名	1,150名	1,240名	1,123名	1,085名	1,415名	1,305名	1,130名	1,150名	1,215名	1,450名	1,350名	1,400名					
観客数	50,000人	70,000人	70,000人	85,000人	56,000人	68,000人	120,000人	150,000人	160,000人	170,000人	170,000人	170,000人	170,000人	170,000人	185,000人	200,000人	200,000人					
総事業費	34,480千円	14,150千円	37,000千円	60,000千円	49,000千円	45,000千円	49,800千円	48,000千円	52,600千円	86,639千円	72,423千円	72,113千円	69,920千円	64,118千円	64,388千円	63,294千円	64,350千円					
柴田勝家	市長	商工会議所会頭	商工会議所会頭	商工会議所会頭	商工会議所会頭	商工会議所会頭	田中 健	名高 達郎	辰巳 琢郎	京本 正樹	美木 良介	渡辺 浩之	山下 真司	大和田伸也	西郷 輝彦	志垣 太郎	地井 武男					
お市の方	記録無し	記録無し	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ	キャンペーンレディ					
最高気温/最低気温	18.8/10.1	27.1/10.3	25.3/9.9	23.2/10.1	21.2/8.4	12.4/5.8	20.1/6.9	13.3/10.4	21.3/10.2	21.0/11.8	21.5/11.6	20.8/14.1	26.0/15.9	14.2/6.4	12.5/7.8	20.2/5.8	15.0/4.0					
天候 6:00-18:00	晴一時曇	晴	晴	曇時々晴	晴後曇	雨後曇	晴後雨一時曇	曇一時雨	晴一時曇	曇後雨	晴一時曇	雨時々曇	晴一時曇	晴一時雨	雨時々曇	晴後曇一時雨	曇一時雨 雷伴う					
関連事業	99組親子3代夫婦渡り初め	鯉のぼり1,000匹吹流し	前日祭(長寿餅つき大会)	同左	同左	同左	同左	鯉のぼり1,000匹吹流し	鯉のぼり1,000匹吹流し	前日祭	同左	前夜祭	桜まつり(4/8)前日祭(4/14)	ふくい春まつり(4/1～5/5)								
	「九十九橋物語」写真集発刊	夜桜照明	鯉のぼり1,000匹吹流し					夜桜照明	夜桜照明	鯉のぼり1,000匹吹流し								夜桜照明	鯉のぼり1,000匹吹流し	鯉のぼり1,000匹吹流し	桜まつり鯉のぼり1,000匹吹流し	
	鯉のぼり1,000匹吹流し		夜桜照明							ふるまい酒コーナー(行列)								夜桜照明				観光周遊バス屋形船の運航
										戦国茶屋「100円」善哉												足羽川・福井城址桜並木ライトアップ

・九十九橋完成記念事業として開催  
 気象情報出展: 福井地方気象台HP「過去の気象データ」<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

項目	第18回 (15年)	第19回 (16年)	第20回 (17年)	第21回 (18年)	第22回 (19年)	第23回 (20年)	第24回 (21年)	第25回 (22年)	第26回 (23年)	第27回 (24年)	第28回 (25年)	第29回 (26年)	第30回 (27年)	第31回 (28年)	第32回 (29年)			
開催日	4/5(土) ・6(日)	4/11(日)	4/10(日)	4/9(日)	4/14(土)	4/12(土)	4/11(土)	4/10(土)	4/16(土)	4/14(土)	4/13(土)	4/12(土)	4/18(土)	4/9(土)	4/15(土)			
コース	県庁～駅前 電車通り～ フェニックス 通り～さくら 通り～呉服 町通り～芦 原街道～九 十九橋～足 羽川左岸河	同左	同左	同左	県庁～駅前 電車通り～ 中央通り～ 九十九橋～ 足羽川左岸 河川敷	県庁～駅前 電車通り～ 中央通り～ 九十九橋～ 足羽川左岸 河川敷	同左	県庁～さくら 通～フェニッ クス通り～駅 前電車通り ～駅西口広 場	県庁～さくら 通～フェニッ クス通り～駅 前電車通り ～駅西口広 場	県庁～さくら 通～フェニッ クス通り～駅 前電車通り ～駅西口広 場	県庁～駅前 電車通り～ 中央通り～ 九十九橋～ 足羽川左岸 河川敷	県庁～駅前 電車通り～ 中央通り～ 九十九橋～ 足羽川左岸 河川敷	県庁～駅前 電車通り～ 中央通り～ 九十九橋～ 足羽川左岸 河川敷	県庁～駅前 電車通り～ 中央通り～ 九十九橋～ 足羽川左岸 河川敷	県庁～福井駅 前～駅前電車 通り～中央通 り～九十九橋 ～足羽川左岸 河川敷			
参加 人数	1,100名	1,400名	1,200名	1,100名	1,100名	1,200名	1,100名	1,000名	中止	1,000名	1,000名	900名	1,000名	983名	1080名 (行列480)			
観客数	215,000人	200,000人	220,000人	230,000人	93,000人	110,000人	110,000人	96,000人	中止	97,000人	136,000人	145,000人	151,000人	153,000人	130,000人			
総事業費	62,105千円	62,105千円	71,200千円	62,718千円	64,492千円	68,020千円	66,533千円	59,280千円	33,916千円	58,037千円	59,691千円	58,922千円	70,907千円	58,782千円				
柴田勝家	松平 健	石原 良純	藤岡 弘	的場 浩司	沢村 一樹	笥 利夫	金子 貴俊	阿藤 快	風間 トオル	照 英	西村 和彦	細川 茂樹	つるの剛士	魔裟斗	布施博			
お市の方	キャンペーン レディ	キャンペーン レディ	キャンペーン レディ	キャンペーン レディ	キャンペーン レディ	キャンペーン レディ	キャンペーン レディ	大地 真央	財前 直美	井上 和香	高橋 愛	川上麻衣子	鹿沼 憂妃	真琴つばさ	相田翔子			
最高気温/ 最低気温	10.0/7.4	25.0/10.6	24.2/9.7	12.9/5.0	14.0/7.4	15.0/8.3	25.0/8.3	24.6/13.3	15.4/6.4	15.3/8.7	15.4/3.9	16.7/4.7	16.7/7.0	23.8/8.2	20.7/14.1			
天候 6:00-18:00	雨一時曇	薄曇	晴後曇	晴時々曇	雨時々曇	曇	快晴	晴	雨後曇	雨一時曇後 晴	晴一時曇	曇	晴一時雨	曇	雨後曇			
関連事業	ふくい 春まつり (3/29～ 4/13)	ふくい 春まつり (4/1～5/5)	ふくい 春まつり (4/1～5/5)	ふくい 春まつり (4/1～30)	同左	同左	ふくい春まつ り(4/1～ 4/30)	ふくい春まつ り(4/1～4/25)	ふくい春まつ り(3/19～ 4/17)	ふくい春まつ り(4/1～4/2 2)	ふくい春まつ り(4/1～4/30)	ふくい春まつ り(4/1～4/30)	ふくい春まつ り(4/1～4/30)	ふくい春まつ り(4/1～4/30)	ふくい春まつ り(4/1～4/30)	ふくい春まつ り(3/25～4/24)		
	桜まつり 鯉のぼり 1,000匹吹流 し	おまつり広場 鯉のぼり 1,000匹吹流 し	おまつり広場 鯉のぼり 1,000匹吹流 し	おまつり広場			隣人祭り おまつり広場	隣人祭り こみちこまち 浜町	隣人祭り こみちこまち 浜町	隣人祭り こみちこまち 浜町	隣人祭り こみちこまち 浜町	隣人祭り たのしみは、 ふくい	たのしみは、春 搾り酒 おもてなしラン チ・スイーツめぐ り	春搾り酒 ランチめぐり EVA展 角川映画祭	浜町ブランド グリフィスマ ルシェ きもの割引	浜町ブランド 浜町ウィーク キッズさくらフェスタ スペシャルパレード		
	観光周遊バ ス 屋形船の運 航	観光周遊バ ス	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」			観光周遊バ ス 遊覧船	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	観光周遊バ ス 「さくら号」	まちなか観光 周遊バス
	足羽川・福井 城址桜並木 ライトアップ	足羽川桜並 木 菜の花ライトア ップ	足羽川桜並木 菜の花ライトア ップ 愛宕坂灯 の回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊			足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊	足羽川桜並 木 愛宕坂灯の 回廊

※地方選挙(4/13,27)  
・地方選挙(4/13,27)

※20回記念

・おまつり広場の充実(4/1～4/10)越前長寿さくら村  
・プレイベントの実施(4/2・3)吉本ステージ等  
・灯の回廊期間延長(3/18～4/17)他事業との連携  
・さくら号の期間延長(3/18～4/30)

・大河ドラマ「江」放映による女優配役

・東北震災により行列中止  
・大河ドラマ「江」放映による期間前倒し  
・大河ドラマ「江」放映による女優配役

・地方選により第三週に行列  
・足羽川ほんぼりはNPO

(第32回より)

・桜開花期間、春まつり期間を意識し春まつり開催前倒し  
・桜と時代行列それぞれで集客を図るため、行列を3週目に

### (3) 現在の開催事業

近年においては、「ふくい春まつり」として、「桜」と「時代行列」を核に1カ月をかけて、福井の歴史、食、文化などをモチーフとした約50のイベントを実施している。また、従来からの足羽河原や愛宕坂ライトアップに加えて、平成22年からは、「まちなかのにぎわいやおもてなしの向上」を目的として、かつて花街としてにぎわった通称浜町（中央3丁目地区）を中心に、界隈のライトアップや福井の歴史、食、文化をテーマとした食談会・音楽会、浜町花見弁当や浜町限定メニューの提供、グリフィス記念館を活用したイベントなど、浜町界隈の各店舗や民間団体の協力を得ながら、事業も実施している。このほかにも、地域で楽しむだけでなく、交流人口を増やすために、観光を意識したまち歩きや茶会など様々な観光メニューが用意されている（ふくい春まつり創客創流事業）。

### 第32回（平成29年度）に実施した主な事業

オープニングセレモニー	ハピテラスを会場に、福井伝統「万寿まき」など市民参加型オープニングセレモニーを実施
さくらの小径ライトアップ	足羽川右岸（桜橋～幸橋間）の通称「さくらの小径」と桜橋に行灯を設置し桜色にライトアップ
浜町花見弁当	浜町界隈飲食店参加による恒例の花見弁当販売
浜町ブランド	浜町界隈飲食店参加によるふくい春まつり期間限定メニューの提供
浜町パン祭り	県内外の人気パン店が集まり手作りパンを味わえるイベントの開催
川TERRACE	さくらの小径を舞台に期間限定の川辺のイベントを開催



オープニングセレモニーでの万寿まき



浜町パン祭り

### 3. 越前時代行列の現状

現在、様々な事業が展開される「ふくい春まつり」において、メインイベントとなっているのが越前時代行列である。福井市には、歴史に名を残した武将や偉人が数多く存在しており、武将にゆかりのある地域の団体や地元企業が各偉人に扮し、歴史をPRしながら福井市内を練り歩く。

第32回となる平成29年度には、武者行列480名、21団体が参加しており、過去最大は第10回（平成7年度）で865名31団体にのぼった。

#### (1) 第32回（平成29年度）の隊列編成

各隊は、メインとなる武将（偉人）や関連する歴史上の人物などで編成されている。参加は各自治体や団体、企業など様々であるが、例年参加団体に大きな変更はなく、決まった武将隊を決まった団体が務め、年によっては一般公募も行っている。

（以下の隊列順は実際の行進順）

##### ①福井幕末維新隊（幕末～明治期）

福井市には幕末から明治期にかけて、日本の歴史の変革に大きく関わった偉人が多数存在している。そこで、行政と経済界が幕末を舞台とした大河ドラマ誘致推進を進め、その一環として第31回（平成28年度）より新たに「福井幕末維新隊」が創設された。メインの由利公正には、タレントを起用し、福井にも深い関わりのある坂本龍馬の功績を研究する越前龍馬会も参加、横井小楠はその出身地である熊本市民が務める。

〔担当団体〕 越前龍馬会、福井市、熊本市、(株)ヤスサキ

〔参加者数〕 33名

〔登場人物〕

由利 公正	福井藩の財政立て直しの手腕をかわれ、明治新政府の参与として財政を担当。さらに「五箇条の御誓文」の草案を起草。廃藩置県後の初代東京府知事に就任した。
橋本 左内	幕末の福井藩士。15歳のとき、「啓発録」を著して、自らの生き方を明らかにした。後に江戸に遊学、春嶽の右腕として、国事に奔走した。
横井 小楠	熊本藩士のち、松平春嶽の政治顧問として、福井藩の藩政改革に取り組んだ。その実績を買われ、幕政改革にも携わる。幕政改革の道筋を示した「国是七条」を建議するなど、国政構想に長ける。

##### ②松平春嶽隊（幕末～明治期）

幕末の各藩の中でも名君と言われる松平春嶽やその妻である勇姫が登場する隊。春嶽を祀る佐佳枝廻社の氏子を中心に、熊本藩主細川家出身の勇姫は幼少期と成年期がそれぞれ登場し、成年期は熊本市の観光親善大使が務めている。

〔担当団体〕佐佳枝廼社氏子中、熊本市、日本郵政グループ

〔参加者数〕 32名

〔登場人物〕

松平 春嶽	歴代の福井藩主の中でも名君といわれ、大胆な藩政改革を行い、藩の財政再建に力を振るった。将軍の後継問題でも一橋(徳川慶喜)派の中心人物としても活躍。明治維新後は公職を辞し、文筆活動に専念した。
勇姫	細川斎護(熊本藩主)の三女で、7歳のとき、当時13歳だった春嶽と婚約。和歌や読書を能くして教養を深め、大奥での儉約を奨めたり、実家熊本藩より横井小楠を招聘する際にも尽力をする。

(勇姫の記載は福井市立郷土歴史博物館HPを参考)

### ③元禄さくら舞姫隊(江戸中期)

特定の偉人は登場しないが、勇ましい武者行列に華を添えようと、華やかな元禄時代をイメージした踊り子隊。地元の着付け学校が務める。

〔担当団体〕京都きもの専門学院

〔参加者数〕 30名

### ④脇屋義助隊(鎌倉～南北朝時代)

新田義貞の弟である脇屋義助の隊。城を構え拠点とした森田地区の自治会連合会が務める。

〔担当団体〕森田地区自治会連合会

〔参加者数〕 15名

〔登場人物〕

脇屋 義助	新田義貞の弟で、ともに後醍醐天皇に仕えた。現在の森田地区に石丸城を構え、北朝方の足利氏と激戦を繰り広げた。
-------	---

### ⑤新田義貞隊(鎌倉～南北朝時代)

鎌倉幕府打倒の中心人物である新田義貞の隊。新田義貞が戦死したことで地名の由来ともなっている新田塚地区自治会連合会が務める。また、新田義貞に奉じられ越前に下向した恒良親王には、新田一族を祀る藤島神社が務めている。

〔担当団体〕新田塚自治会連合会、藤島神社

〔参加者数〕 23名

〔登場人物〕

新田 義貞	源氏の名門である新田家の出身で、鎌倉幕府打倒に大きく貢献した。後に足利尊氏と対立し、灯明寺畷での戦闘中に無念の死を遂げている。
恒良親王	醍醐天皇の皇子。名前の読み方は「つねなが」と「つねよし」の2説がある。当時気比神宮が後醍醐天皇を支持していたため、その縁で福井へ向かい、敦賀の金ヶ崎城に入った。

### ⑥新田義宗隊（鎌倉～南北朝時代）

新田義貞の三男である新田義宗隊。父の意志を受け継いだ勇ましいイメージから、地元の少年剣道クラブが務め、沿道では剣技パフォーマンスを行っている。

〔担当団体〕 福井少年剣道クラブ

〔参加者数〕 15名

〔登場人物〕

新田 義宗	新田義貞の三男。足利尊氏と対立した義貞の死後に、義宗が挙兵するが、足利軍に追い詰められて自決したと伝えられている。
-------	---

### ⑦朝倉宗滴隊（戦国時代）

朝倉当主三代に渡り、参謀役として補佐した名武将の隊。地元企業である福井信用金庫にて、一般武者は新入社員、宗滴役を役員が務めている。

〔担当団体〕 福井信用金庫

〔参加者数〕 41名

〔登場人物〕

朝倉 宗滴	朝倉貞景、孝景、義景と当主三代にわたって補佐をしてきた参謀役の武将。各地で武名を轟かせたと言われている。
-------	--

### ⑧朝倉義景隊（戦国時代）

戦国時代に5代103年に渡って越前国を治めた朝倉氏。その5代当主の隊。地元朝倉氏遺跡保存協会が義景役を務め、真柄十郎左エ門や鳥居景近、墨坂景久らの名を馳せた家臣は福井青年会議所が務める。また、味真野観光協会や三峯城跡甲冑会などは自前の鎧で参加しているのも特徴。

〔担当団体〕 朝倉氏遺跡保存協会、福井青年会議所、味真野観光協会、  
三峯城跡甲冑会

〔参加者数〕 55名

〔登場人物〕

朝倉 義景	5代当主の義景の時代には、芸術や文化に造詣が深かった彼を頼って多くの文化人が訪れている。本拠地の一乗谷は北陸の小京都として栄えたが、1573年に織田信長の進攻を受けて滅びた。
真柄 十郎左エ門	朝倉氏の家臣として知られる豪傑で、五尺三寸（約175cm）の非常に長い太刀を使ったと言われている。

### ⑨大谷吉継隊（戦国時代）

第32回から新たに加わった企業公募隊。越前の武将ではないが、敦賀藩主として名高く、近年はテレビやゲームなどで人気の武将となっている大谷吉継の隊を創設した。

〔担当団体〕 ㈱ミツヤ

〔参加者数〕 20名

〔登場人物〕

大谷 吉継	秀吉政権のもと敦賀城主となり、敦賀城下の整備拡大を図った。関ヶ原で盟友石田三成側について戦うが敗れる。また、晩年はハンセン病を患い、白い布で頭を覆って戦った武将と言われている。
-------	--

(記載は敦賀市観光協会ホームページを参考)

#### ⑩結城秀康隊（江戸時代初期）

徳川家康の次男として、福井藩の礎を築いた結城秀康隊は福井県機械工業青年会が毎年務めている。沿道での殺陣のパフォーマンスや小さい子供へのお菓子配り、またステージ上での独自のPRを行っている。

〔担当団体〕 福井県機械工業青年会

〔参加者数〕 20名

〔登場人物〕

結城 秀康	徳川家康の次男で、下総（現在の茨城県）の大名・結城晴朝の養子となって結城姓を名乗った。関ヶ原の合戦の功績から越前の統治を任され、勇壮な北庄城（のちの福井城）や城下町を建設し、福井藩繁栄の礎を築いた。
-------	---

#### ⑪本多成重隊（安土桃山～江戸時代初期）

日本最古の天守閣として人気の高い丸岡城。その天守閣を国宝にするために活動をしている市民団体が、丸岡城主であった本多成重隊を第31回から務めている。

〔担当団体〕 丸岡城天守を国宝にする市民の会

〔参加者数〕 30名

〔登場人物〕

本多 成重	丸岡城主となり藩政に力を尽くした。大坂の両陣でも活躍。模範の手紙文例として有名な「一筆啓上、火の用心、お仙泣すな、馬肥やせ」のお仙が成重のことである。
-------	---

(記載は福井県立図書館ホームページを参考)

#### ⑫お市の方隊（戦国時代）

戦国一の美女として名高いお市の方や、歴史上大きく活躍する武将の妻として、数奇な運命を辿った三姉妹がメインとなる隊。お市の方役には女優を起用し、三姉妹役には市内在住の実存の三姉妹を公募した。また、第32回より、多くの子供達に福井の歴史と時代行列を知ってもらおうと、子ども武者隊(公募)を新設した。

〔担当団体〕 女優、公募三姉妹、ビルメンテナンス協会、一般公募の子供達

〔参加者数〕 119名

〔登場人物〕

お市の方	織田信長の妹で、戦国一の美女であったと伝えられている。最初は浅井家に嫁ぎ、夫・浅井長政の死後には柴田勝家と結婚。羽柴秀吉が北庄に侵攻した際、脱出を拒んで勝家と運命を共にしたと言われている。
お茶々	三姉妹の長女。豊臣秀吉の側室となり、大坂夏の陣で息子の豊臣秀頼と共に自害したと伝えられる。
お初	三姉妹の次女で、名門「京極家」に嫁ぎ、後に夫・京極高次とともに小浜へ移る。大坂夏の陣では敵味方に分かれてしまった姉妹たちのため、戦を止めようと奔走したと言われる。
お江	三姉妹の三女で、2度の結婚を経て徳川秀忠の正室となり、3代将軍となる家光をはじめ、2男5女をもうける。

⑬柴田勝家隊（戦国時代）

時代行列のきっかけとなった柴田勝家役は俳優が務める。また、勝家の配下に入った有名な府中三人衆を地元企業の福井銀行役員が、勝家の養子の勝豊、家来衆は柴田神社総代会が務める。第32回はちびっこ勝家役3名を公募した。

〔担当団体〕 俳優、福井銀行、柴田神社総代会、一般公募

〔参加者数〕 49名

〔登場人物〕

柴田勝家	一向一揆平定後の越前の統治を任された織田家の重臣。信長の死後は羽柴秀吉と実権を争うが、賤ヶ岳の戦い(1583年)において敗北し、本拠地・北庄に敗走。最後は北庄城で妻・お市の方と共に命を絶った。
府中三人衆	織田信長の命で、越前府中(越前市)を任せられた有能な三武将のことで、佐々成政、不破光治、前田利家を指す。



お市の方隊



柴田勝家隊

## (2) コースと内容

第32回 越前時代行列では、福井城址（福井県庁）を出発して、ゴールの足羽河原まで約1.8kmのコースを進んだ。スタート地点ではオープニングセレモニーが行われ、鳶組合による梯子乗りや柴田勝家・お市の方役によるパフォーマンスが繰り広げられた。コースは毎年見直しを重ねており、必要に応じて変更している。今年を中心市街地に賑わいを作ろうと、昨年オープンしたハピリンの前を通るコースに変更している。

福井城址→ハピリン前→駅前電車通り→中央大通り→九十九橋→足羽河原  
(約1.8Km)



### ①福井城址（福井県庁）

時代行列のスタート地点。オープニングセレモニーにて、主催や来賓挨拶や開会宣言が行われた。非常に多くの観客で賑わうエリアである。

### ②ハピリン

今年から新たにステージを設け、チアダンスなどのパフォーマンスが行われた。行列の進行中は、大型ビジョンを使った各隊列の歴史解説が行われた。

### ③そごう・西武福井店前

各隊列のパフォーマンスエリアともなっており、毎年、多くの観客で賑わうエリアである。

### ④大名町交差点

地域交通の大動脈として、南北の道路は通行止めをかけない。そのため、行列の進行が分断されてしまうことが課題となっている。

### ⑤本町通り

道路幅が広く、ゴールの九十九橋や足羽河原のステージに近いので、観客の少ないことが課題となっているエリアである。

### ⑥九十九橋

越前時代行列は九十九橋の完成記念事業として始まっている。ここで、メインキャストは馬や山車から降り、ゴール地点まで進んでいく。

### ⑦足羽河原

ゴール地点であり、ステージが設けられている。ステージ上では各隊列が到着の口上やチームのPRを行う。飲食ブースなども設置されており、時代行列と桜並木の見物客で非常に賑わうエリアである。



そごう・西武福井店前



九十九橋

## (3) 行列当日の関連事業（行事）

### ①出陣奉告祭

越前時代行列出発前には、行列の成功と安全を祈願する出陣奉告祭が、柴田勝家とお市の方ゆかりの柴田神社にて執り行われた。ふくい春まつり関係者を始め、柴田勝家、お市の方役を務める俳優2人も参加した。

### ②出陣式

越前時代行列出発地点である福井城址（県庁）では、オープニングセレモニーが催され、開会式典に加え、地元鳶組合による梯子乗りや、柴田勝家役とお市の方役の俳優によるアトラクションが行われた。

### ③中学生の清掃・案内ボランティア

本年においては新たに明道、明倫、光陽中学校の生徒によるボランティアが行われた。1年生から3年生まで99名が時代衣装に扮して、コース周辺の清掃活動やスケジュールの案内、うちわ配りなどにあたった。初めは戸惑いも見えたものの、「ゴミありませんか」「柴田勝家隊は



この後に通ります」と大きな声で積極的に活動を行い、生徒からは大きなイベントでボランティア活動に従事できた喜びと、越前時代行列を知ることができたとの声が聞かれ、また、観覧者からはお礼の手紙も届くなど、非常に好評であった。

#### ④ステージパフォーマンス

##### (ハピテラス、足羽河原)

武者行列が到着するまでの間は、ゴール地点である足羽河原のステージにて、地元の学校や団体による吹奏楽やマーチング、バトントワリング、チアダンス、和太鼓、吟舞、空手、民謡、バレエといった様々なアトラクションが催された。今年にはコース変更に伴い、ハピテラスにも同様のステージを設けた。



#### ⑤時代行列解説トーク

本年から新しく設けたハピテラスステージでは、上記のアトラクションのほか、時代行列に登場する福井ゆかりの偉人達を深く知ってもらおうと、行列に登場する偉人の解説トークを行った。ハピテラス前を通る武者隊を見ながら、地元歴史家が偉人の生い立ちや関連するエピソードなどを紹介した。



#### ⑥福井&福井絶品グルメ食満開コーナー

歴史だけではなく地元の食を楽しむ機会として、ゴール地点の足羽河原では福井の食材を使ったオリジナル井やご当地グルメの販売コーナーを設け、約30店舗が参加した。また、時代行列の一般公募の方には、食満開コーナーの利用券を進呈し、行列終了後も楽しんでいただく仕掛けづくりを行った。

#### ⑦顔ハメフォトスポット

本年新たに、流行しているSNSなどに使えるフォトスポットとして、時代行列のコース周辺10箇所に、行列に登場する偉人の顔ハメ写真パネルを設置した。若者や親子連れを中心に写真を撮る様子が見られた。



## 4. 他県の武者行列の事例

他県においても歴史を生かして、越前時代行列同様の武者行列が行われている。他県では、全国的な知名度の武将や地域のブランドイメージを生かし、地元住民がまつりを楽しむとともに、観光として地域外から多くの人を訪れることも少なくない。

また、こうした地域の中には、有名タレントを招聘して誘客を行う地域もある。近年では行政主導から市民や企業など地域の自主的な取り組みにシフトしている地域も見受けられる。

### (1) 各地事例紹介

#### ① 武将の知名度を生かした事例

##### 信玄公まつり（山梨県甲府市）

概要	信玄公祭り実行委員会（(公社) やまなし観光推進機構） 平成29年4月7日（金）～9日（日）（46回目） 参加1,500名、全33団体（うち企業20団体） 来場12万4千人 予算8,500万円 企業隊参加費用130万円
内容	信玄公の命日（4月12日）の前の金～日曜に盛大に開催され、土曜日の夕方からは、県内各地から1,500名を超える軍勢が舞鶴城公園に集結し、川中島に向け出陣の様子を再現する。その規模は世界最大級。燃え盛るかがり火のもと、信玄公をとりまく勇猛果敢な武田二十四将とともに執り行う出陣の儀式・三献の儀から「風」「林」「火」「山」の各軍団の出陣へと、華麗な中にも勇ましい一大戦国絵巻が繰り広げられる。

#### ② 有名タレントの招致で誘客を図る事例

##### 会津まつり（福島県会津市）

概要	会津まつり協会 平成29年9月22日（金）～24日（日） 来場14万人
内容	「会津藩公行列」は様々な時代の会津藩の人びとの姿に扮した総勢約500名で構成される行列で、市内各所を武者姿で練り歩く。鶴ヶ城本丸にて出陣式が行われ、行列はまちなかへ向けて出発、各所では奴隊による毛槍による所作も披露される。武者隊は様々な時代の会津藩の偉人で構成されるが、毎年人気の高い俳優が起用され、ここ数年は大河ドラマに主演した人気女優が出演し話題となっている。

### ③地域のイメージを生かした事例

伊賀上野NINJAフェスタ（三重県伊賀市）

概要	伊賀上野NINJAフェスタ実行委員会（伊賀市） 平成29年4月1日(土)～5月7日（日）（15回目） 来場3万6千人 予算2,000万円
内容	期間中の土・日・祝日には忍者変身処にて忍者衣装に変身できる。また、忍者犬変身処ではペットの犬も変身可能。まちかど忍者道場では、忍者修行が楽しめる。（その他：吹き矢道場、忍者パズル道場、天井すいすい道場、行燈火消道場）期間中の平日でも、ぷち忍者変身処で忍者に変身できる。2か所あるぷち忍者道場では手裏剣打ちを体験できる。

### ④市民参加型にシフトした事例

松江武者行列（島根県松江市）

概要	松江武者行列実行委員会 平成29年4月1日(土) 参加250名 来場12万人
内容	松江開府の祖、堀尾吉晴公とその一行が松江城に入城する様子を再現した絢爛豪華な時代絵巻。勇壮な武者や色鮮やかな姫などに扮した大勢の市民が参加し、松江城を目指し桜咲く市内を練り歩く。 京都造形芸術大学とタイアップした形で、芸術監督に毛利臣男氏、所作指導に藤間信乃輔氏を招き、毎年テーマを決めて行われている。現在、毛利氏は名誉監督となり、市民が中心に行う祭りに移行されている。市民団体で「武者応援隊」が結成され、松江城を中心に「婚礼」や「若武者隊」、「フォトコンテスト」などを展開される。

## （2）第66回金沢百万石まつり視察報告

当検討委員会ではふくい春まつりのリニューアルを図る上で、同じように行列を行っている他県の状況を把握するため、規模も大きく北陸新幹線開業に向けて積極的に取り組みを行った百万石まつりの視察を行った。

視察日：6月3日（土）

参加者：ふくい春まつり魅力向上検討委員会メンバー他 8名

概要：前田利家の金沢入城を偲び開催され、昼夜で様々なイベントが催される。

百万石行列 参加者2,000人／来場者410,000人

内容 祈願祭、茶会、百万石行列、踊り流し、薪能、茶会、  
とうろう流し、提灯行列

### ① J R金沢駅周辺

金沢駅では観光協会によるまつりの案内ブース出展や、各パンフレットの展示、案内サイン等が出され、まつりに合わせた観光商品も作られている。駅構内ではまつりの記念撮影スポットが設置。鼓門側から市内へ向かう道路は両端とも、場所取りのブルーシートがいくつも貼られており、人気の大きさがうかがえた。ただし、観光協会によるとまつりの来場者数については正確に把握していないとのことである。



金沢駅周辺の様子

### ②長町武家屋敷跡界限見学

金沢駅近くにはかつての加賀藩の武家屋敷群が残っており、観光資源として活用されている。当時の建築様式や資材がそのまま残っているところや、修復のためにあらたに手を加えられたところが混在しているが、全体的に当時の趣を感じるように整備されている。位の高い臣下の屋敷はかなりの広さであるが、庭園なども昔のままにしっかりと残っており、見ごたえも十分で、大きな火災等がなかったことが大きいと思われる。武家文化のイメージを抱く金沢の町並みを観光商品としてうまく作りあげられている。当日は無料のボランティアガイド「まいどさん」により各地の解説をいただきながら散策したが、まち歩きを楽しませる引き出しが多く、百万石まつりに合わせて来た観光客がまつりだけではなく、金沢で観光（消費）をする環境ができている。



まいどさんによる歴史解説

### ③大友楼での金沢食文化の解説

加賀藩の御膳所でもあった創業 180 年の老舗料亭にて、会席料理の体験と金沢食文化の解説を受ける。代表自ら解説をいただき、武家文化の影響を受けた伝統料理や器や建物などの歴史文化も学べる機会となった。

### ④尾山神社、玉泉院丸庭園、金沢城公園見学

いずれも広いエリアでゆったりと歩ける環境となっており、建物も改修され、見ているだけでも楽しめる場所であった。玉泉院丸庭園については前田家ゆかりの庭園として、北陸新幹線の開業に合わせて急ピッチで整備完了させた施設。現在はお茶会なども行われており、外国人観光客も目立ったが、各言語対応のパンフレットもしっかりと設置されていた。金沢城公園は百万石行列のゴールとして多くの方で賑わっていた。芝生のエリアで家族連れも安心して遊べる。時代風の屋台も出るなど、雰囲気作りもうまい。夜は薪能等が行われ、宿泊してもらおう仕掛けもある。

## ⑤金沢百万石行列見学

ゴール手前の特別観覧席で百万石行列を見学した。特別観覧席は約600席設けられ、1席2500円で7割方埋まっていた。ツアー商品の1つに組み込まれていた。約2.5時間の観覧時間であったが、各隊ともパフォーマンスを盛り込んでおり、飽きることなく見学することができた。以下に特徴や福井との違いを挙げる。



百万石行列の様子

- ・行列自体は参加者2,000名と福井の約4倍であるが、構成は武者隊だけでなく、地元の野球・サッカーチーム、マーチング、神輿、獅子舞、鳶、鷹匠も組み込まれている。
- ・それぞれの隊が音やパフォーマンスで楽しませる場面があり、行列の間が詰まった時なども適宜パフォーマンスを行っている。
- ・武者行列に関しては、衣装は福井と大差ないが、山車は福井の方が多く、企業などのPR旗はない。
- ・山車はトラックにパネルを合わせた張りぼてで、見栄えは悪いものの、山車にスピーカーを積んで運行することで音により賑わいを演出していた。
- ・市内の各学校がマーチング等で出演する仕組みが出来上がっている。
- ・約3.1キロの行列会場に合わせ、全面交通規制となっているため、行列の進行が途中で途切れることがない。
- ・前田利家とお松の方にタレントを起用しているが、タレントによる地元の集客力が大きい。
- ・隊の最後は馬10頭に揃えた赤母衣（あかほろ）衆だが、京都からプロを招いており、乗馬を魅せる演出は迫力があつた。

百万石まつりはその名の通り、金沢のイメージを生かした取り組みになっており、武家文化や百万石という豪華さ、きらびやかさを表した構成となっている。まつり自体の規模も大きいものの、3日間の期間の中で資源を集中させていることもイベントを行う上でPRしやすい要因であった。

百万石行列自体は、各所でパフォーマンスを行うなど楽しめる要素があるが、行列単体での県外誘客を図るというより、金沢市全体の観光の1コンテンツとして実施されている。無料のボランティアガイドによる対応や、中心市街地の中にしっかりと楽しめる歴史や文化施設も豊富で、イベントのついでに観光できる取り組みが出来上がっているといえる。

## 第2章 ふくい春まつりの課題と改善

「ふくい春まつり」は、多くの地域住民や企業や関連団体等によって支えられ、福井市で開催しているイベントの中でも大規模で歴史があり、32回に渡って継続してきた。

しかしながら、まつり全体に対してマンネリ化の声や、ふくい春まつりの各イベントに参加する店舗、企業、団体からは一定の評価を受けるものの、イベント参加への疲労感も聞こえてくる。また、時代行列も同様に、参加者からの喜びの声はあまり伝わってこない。「ふくい春まつり」を地元の住民が参加し、楽しみ、ひいては交流人口を増やす観光資源とするには、以下のような課題が挙げられる。

### 1. 課題

#### (1) 開催目的の再確認

福井市には大きなイベントが2つある。1つはこの「ふくい春まつり」であり、もう1つは8月に開催される「福井フェニックスまつり」である。福井フェニックスまつりは、昭和29年「福井まつり」として始まり、戦災、震災など多くの苦難を乗り越えてきた歴史を「不死鳥（フェニックス）」に例えたもので、平成29年度で64回を数えた。これまでは、それぞれまつりのルーツから、「ふくい春まつり」を県外誘客のまつり、夏まつりである「福井フェニックスまつり」を地元住民が楽しむまつりとして認識してきた。

このように、ふくい春まつりの目的が「観光誘客による地域経済の活性化」ということであれば、まつりのコンセプトと長期的な戦略を再構築する必要があると考える。特に5年半後となる北陸新幹線開業は、交流人口増大の大きなチャンスであり、それに向けた取り組みが今から必要と考える。

#### (2) ふくい春まつりの全体イメージの向上

もともと福井は全国的にもイメージのない県であり、「ふくい春まつり」と言っても、恐らく県外の大部分の方には全くイメージできないであろう。福井をイメージするのは、従来の「東尋坊」、「永平寺」、「越前ガニ」に加えて、最近では「恐竜」といったところであり、春とは縁遠いものばかりである。春をイメージするものが何かしら必要であると考えられる。

### (3) 福井オリジナルの桜

全国各地に桜の名所が点在する。それぞれが「日本でも有数」と喧伝するが、一部を除いてどこも似たり寄ったりが実情である。こうした中であって、桜も越前時代行列同様に、福井でしか見られない桜をどう作り上げるかが大きな課題である。確かに総延長2.2kmにのぼる足羽川河原の桜は圧巻であり、見るものの心を打つことは間違いないが、遠くから時間とお金をかけて、これを見にわざわざ福井まで来るかは、いささか疑問が残り、観光資源としての磨き上げを図らなければならない。

### (4) 全国の時代行列との差別化

ふくい春まつりは第32回を終え、前述した通り様々な事業を展開しているが、ふくい春まつりのコア事業である「越前時代行列」は、毎年、勝家、お市の方役の俳優に関心が集まっている。起用するタレントによって動員は左右され、しかも、それを目当てに来るのは大部分は地元住民であり、やはり、県外誘客を図るには、他にはない、福井でしか見ることのできない、体験できない時代行列が必要と考える。しかし、誰もが知る、歴史的に突出した人物は福井にはほぼ皆無で、そうした中でいかに歴史物語として越前時代行列を作り上げるのかが大きな課題である。

以上、これらの課題を解決するためには、現状にとらわれない新たな「ふくい春まつり」を目指し、全国に情報発信ができる飛び抜けた取り組みが求められている。



## 第3章 ふくい春まつりの魅力向上プラン

### 1. ふくい春まつりの目的とコンセプトの再定義

#### (1) 目的

第1章で述べた通り、そもそもの開催目的は九十九橋の架け替え工事の完成を記念したイベントであったが、30年を超える歴史の中で、徐々にその目的は変化している。福井市では一昨年度に北陸新幹線の福井開業に向けて、観光振興計画を平成28年から平成32年までと期間を前倒しで策定した。その中では、観光による交流人口を増やすため、「五感に響く観光メニューの提供」を施策の方向性として打ち出しており、その具体的な事業としてふくい春まつりを位置づけている。

北陸新幹線開業時には福井市に訪れる観光客が増加することは間違いなく、視察を行った金沢市は新幹線開業のチャンスを生かして地域のブランド化を成功させた好事例である。

また、地域の活性化を図るためには、出来る限り多くの人々が参加できるまつりとすべきである。それぞれが参加できる形を設け、歴史、文化、自然など各分野を再認識し、郷土愛を育む機会としたい。こうした中、福井市においてもふくい春まつりを下記の2つの目的のもと実施すべきと考える。

#### 1. 観光の交流人口拡大による地域経済の活性化

#### 2. 地域の歴史・文化・自然を再認識し、郷土の誇り醸成

但し、「交流人口の拡大による地域経済の活性化」が大きな目的の一つであったにしても、まずは、地域住民がまつりに参加したくなる、参加して楽しいまつりが必要である。最近の観光は、団体旅行に代表されるお仕着せの観光ではなく、地元住民の日常生活や楽しんでいる“コト”を同じように体験することが求められている。

まずは福井の地元住民が参加し、楽しみ、愛する、  
誇りに思えるまつりとすることが当面の目的である。

## (2) コンセプト

当検討委員会ではコンセプトについて様々な議論がなされた。新たな「ふくい春まつり」を作り上げる上で、目的とコンセプトがぶれてしまうと、今回の検討の意味はなく、同じような議論の繰り返しとなる。目的にあったコンセプトを明確にし、継続性と一貫性を持って、今後の事業展開を図る必要がある。

神輿、山車、踊りなど、まつりには必ずシンボルがあり、「福井の地元住民が誇りに思えるまつり」にするには、そのシンボルが必要である。福井市民にとってそのシンボルは何かと考えた時に、誰しもが思い浮かぶのは「足羽川、足羽山の桜」であろう。古来より日本にはあらゆるものに神が宿るとされ、桜もまた、その名前の由来は神が宿る木として「サ＝神」の「御座＝ミ「クラ）」とも言われており、桜を心の拠り所としてまつりのシンボルとしたい。

また、「桜」は国花として、日本国民から最も愛される花である。華やかに咲いて、儂く散る桜の姿は、日本人の美意識に通じ、古来より歌や絵に取り上げられてきた。現代においても、多くの“桜ソング”があることなどからも、桜が日本人の心情にいかにもマッチしているかが伺い知ることができる。

従って、足羽川、足羽山といった特定の桜もさることながら、我々日本人の過ごす日々の周辺には桜があり、そうした桜の象徴として、足羽川、足羽山といった特定の桜に焦点を当て、そこに観光資源として新たな付加価値を与えることは、福井市民や訪れる観光客の大きな共感を呼ぶことが出来るものと考えます。

春の期間を通して、足羽川、足羽山の桜を中心に様々な場所で様々な桜を楽しむ機会を提供し、それぞれの人に桜との大事な思い出を振り返ってもらうとともに、新たな思い出作りのための取り組みを進めていきたい。そのためには他の地域にはない桜を作り上げることが必要で、下記のコンセプトを提案する。

### ライトアップで映し出される、圧倒的に「美しい桜」のまつり

ライトアップについては後述するが、以上のコンセプトを踏まえて、具体的なリニューアル案を提示していく。



## 2. まつりの魅力向上に向けた「ふくい春まつり」リニューアル案

### (1) ふくい春まつりの名称の変更

現状の「ふくい春まつり」は「春の期間のまつり」の連想がなされるが、イメージ範囲が広く、漠然としている。そこで、桜が売りのまつりとして、いつ頃、どこで開催されているのか、わかりやすく伝わりやすい下記のネーミングに変更する。

ふくい桜まつり

日本一のスケールと言われる足羽河原の桜並木は春先に多くの観光客や地域で賑わっており、誘客を図る上では一番の観光資源と言える。また、市内には多くの桜の名所があり、地域住民にも愛着のあるものである。そこで、「桜」をメインとしたネーミングとし、“見にいきたくなる、楽しめる、愛着のもてる特別な期間”をイメージさせる。また、桜と武士は親和性が高く、メインイベントである「越前時代行列」とのイメージも関連づけやすい。

### (2) 会期の変更

現状の1カ月に渡る開催期間中は、様々な団体が様々なイベントを市内各地で開催しているが、逆にイベントが多いことで、何が売りなのか、いつ開催しているのかがぼやけてしまっている。また、桜の開花時期が早まっていることで、多少のずれ込みを考慮し、土日を3回迎える16日間とする。3月の最終土日からスタートし、週末ごとにイベントを開催、平日は桜を見て楽しむ。

但し、桜のライトアップ期間についてはまつりの期間とは別に、その年の桜の開花予測をもとに柔軟に対応する。限られた予算とマンパワーを集中し、“参加したくなる、楽しめる、愛される”イベントを展開する。また、越前時代行列については、ふくい春まつりのフィナーレを飾る最大のイベントと位置付ける。

土、日3回の16日間の開催。但し、桜のライトアップ期間は柔軟に対応。

第33回（平成30年）スケジュール（案）

2018,3月						
日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	31 イベント
						桜
2018,4月						
日	月	火	水	木	金	土
1 事業	2 桜見物	3	4	5	6	7 事業
桜	桜	桜	桜	桜	桜	桜
8 事業	9 桜見物	10	11	12	13	14 事業
桜	桜	桜	桜	桜	桜	桜
15 事業	16	17	18	19	20	21
桜						

### (3) まつりのコア事業の魅力向上

予算やマンパワーなどの限られた資源を投下し、観光面で競争力のあるコア事業を育て上げることが、新たな「ふくい春まつり」には求められる。コンセプトにもなっている桜は、日本一のスケールと言われる足羽河原の桜並木を始め、足羽神社のしだれ桜、朝倉氏遺跡の糸桜など、福井市内や周辺の市町には多くの桜スポットがあり、春先に多くの地域住民や観光客で賑わっており、実績の上では一番の観光資源と言える。また、時代行列は福井の歴史を再現したもので、他県では真似できない事業に成り得る将来性がある。桜と武士は親和性も高いことから、相乗効果も期待できる。従ってこの2つをコア事業とし見直しを図っていきたい。

#### ① “ダントツ”の桜づくり

東京千鳥ヶ淵をはじめ、青森弘前公園、大阪造幣局など、全国各地には多くの桜の名所が存在する。こうした中であって、「福井へ行ってみたい」、「福井の桜を見てみたい」と思わせるには、福井にでしか見られないダントツの桜づくりが必要となる。福井市の足羽山・足羽川の桜は桜百選に選ばれているものの、桜の木そのものでは、残念ながら他の地域と差別化は図れず、福井市の桜を観光資源として評価を高めるためには、桜への人工的な演出、及び周辺エリアの魅力を高める仕掛けづくりが必要と考える。

また、単にその美しさを訴求するだけでなく、桜とともにあった人生や生活を思い出す“モノ”ではない、“コト”の桜づくりも今後検討すべきである。四季豊かな日本人の生活であるが、出会いや別れの多くは春であり、こうした桜にまつわる人生や時代を振り返る桜と場が提供できれば、他にはない桜の名所ができるものと考え。

こうした福井オリジナルの桜づくりのために以下の事業を提案する。

#### i. 桜のライトアップに特化した夜型観光への取り組み

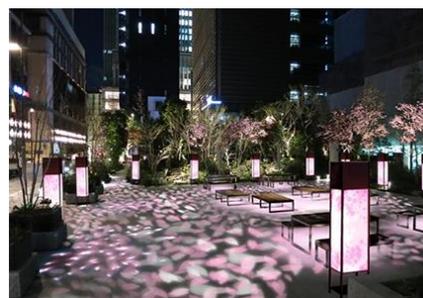
他の地域との差別化を図るために、まずは他には類を見ない徹底したライトアップを足羽川の桜に施し、圧倒的なボリューム感や美しさを演出する。「夜桜」ということになれば、県外からの観光客は宿泊が必要となり、さらには翌日の観光など一層の経済効果も図れる。そのためにも、以下のような取り組みにより、他の地域の桜との差別化を図ることが必要である。

##### ア. 桜並木の日本一長いライトアップの実施

日本一と言われる足羽河原の2.2キロの堤防をライトアップやイルミネーションを施し、全国でも有数の夜桜スポットを作り上げる。

##### イ. まちなかまるごと桜色のライトアップ

福井駅を中心として、まちなかを桜色へ染め上げるライトアップを実施し、まつり期間の意識づけと機運醸成を図る。



ウ. 夜間ライトアップ時間の延長

愛宕坂などの各ライトアップの終了時間の延長や周辺店舗の営業時間の延長を促し、夜間の回遊性を高める。

エ. 桜をイメージしたプロジェクションマッピングの実施

まちなかの施設やスポットを使って、桜をイメージしたプロジェクションマッピングを実施し、誘客を図る。

オ. 夜桜スポットを巡るまち歩きの実施

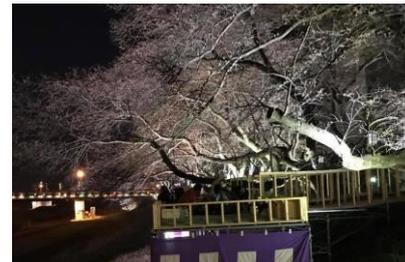
地元でも知らない桜や歴史のスポットを知ってもらうため、ガイドによる夜のまち歩きを実施する。

カ. 夜桜バスの運行

現在、昼間に運行している観光周遊バスの観光性を高めるため、市内のホテルや夜間の夜桜ライトアップスポットなど夜のまちを巡る、夜桜バスを運行する。

キ. 足羽河原の川床設置とケータリングや屋台の設置

堤防の桜のすぐそばに見物スペース（川床）を作り、夜桜花見スポットを作り上げる。各飲食店と協力し、川床へのケータリングや河原に屋台を設置し、食を楽しむ仕掛けづくりも行う。



ii. 桜関連事業の実施

まつり期間中は、桜の花の鑑賞だけではなく、桜に関連するイベントを各地で実施し、さらなる交流人口の拡大と経済活性化を図る。

ア. 桜メニューの開発と食べ歩きイベントの実施

イ. 桜をイメージさせる販売促進イベントの実施

ウ. 桜を使ったワークショップの開催

- ・桜と地酒を使った大宴会の開催や各企業や団体の花見促進条例の制定
- ・桜に関連する文化イベントの開催
- ・桜と越前時代行列写真撮影会実施

エ. 桜をモチーフにしたゆるキャラ作り

PR手法の一つとして、時代行列や各イベントへ参加し、桜のイメージを広げる。



iii. 「福井オリジナルの桜づくり」に向けた中長期的な取り組み

この他、地域住民が楽しみ、誇りとなるものにするためには、桜との思い出づくりの機会を提供し、それぞれにとってシンボルとなる桜を作りあげることが必要である。中長期の取り組みとはなるが、必要なものとする。

ア. シンボルとなる桜の植樹と継続的な投資による桜の名所エリアづくり

桜の開花期間は短く、種類により開花する期間も違って来るが、人により好きな桜の種類は違うため、様々な場所で様々な種類の桜を使っての取り組みが考えられる。様々な種類の桜を景観と生息に適した場所へ植樹し、桜を絶やさぬよう取り組みを行うとともに、中央公園や左内公園、文化会館などの施設整備のための継続的な投資を行い、桜を楽しめるエリアと期間を広げ、地域住民の意識醸成を図る。また、北陸新幹線開業に向けて、福井の顔となるエリアの施設周辺にも桜を植え、桜のイメージを強化する。

(桜の種類と開花時期の違い)

シダレザクラ	↓ 一週間後	ソメイヨシノ	↓ 数日後	ヤマザクラ	↓ 数日後	ヤエザクラ
						

イ. 各イベントや慶事等での市民への桜の苗木進呈

一番身近にある存在として、桜をイメージづけるため、ふくい春まつりの時や新生児誕生時など、イベントやお祝いで桜の苗木を進呈する。



## ②越前時代行列の刷新

ふくい春まつりの誘客を図る上で、もう1つの核となる事業が時代行列である。前述のように、まずは地域住民が積極的に参加し、参加した充実感を味わえるまつりとするのが最も必要である。

また、参加しなくとも、家族や知人が参加を楽しんでいる姿を見たり、行進後にはその充実感を共有したりすることも大事で、これはまつりの原点とも言える。

さらには、時代行列を通じて、子供から大人までが地域の歴史を学び、自分達が暮らす地域の特色や文化のルーツを知ることによって、他県に誇りたくなる、思入れがもてる郷土愛へつながる。

こうしたまつりを作り上げるために以下の改革案を提案する。

### i. 女性を主役にした新たな「越前時代行列」

これまで越前時代行列のメインを務めてきたのは柴田勝家であった。また、他地域の武者行列も武将がメインとなるところが多く、言うなれば“武者行列＝男の世界”である。時代行列の抜本的な改善を考える上では、地域に愛されながらも他地域との差別化を図り、福井でしか見られない、体験できない行列として内容を一新することが求められている。放映が地域経済に大きな影響を与えるNHK大河ドラマには、これまでお市の方、三姉妹が幾度となく登場している。また、越前時代行列に登場する偉人の傍らには姫君や女性達が存在する。そこで、戦国一の美女として知名度の高いお市の方や三姉妹を始めとした「女性」を主役とした時代行列とする。時代行列の各隊にも新たに姫役等を設け、企業から女性を派遣いただく取り組みを行う。

周知の通り、福井の女性は就業率、共働き率が日本一と社会的に活躍する一方で、夫、家族、家庭を支えており、戦国の世や武家社会の中で強く夫や家族を支えて来た姫君たちの生き方にも合致する。

更には、お市の方や三姉妹から連想される“美”、“家族”、“絆”は、三世代同居の高さなど福井の文化に通ずるもので、今まさに社会が求めているものである。柴田神社には勝家公やお市の方、三姉妹の像も建立されており、「美」や“家族の絆”の聖地」化を図ることも考えられる。

以上を踏まえ、今後の時代行列は下記のテーマを設定する。

**越前時代行列 ～その歴史を飾った華麗なる姫たち～**

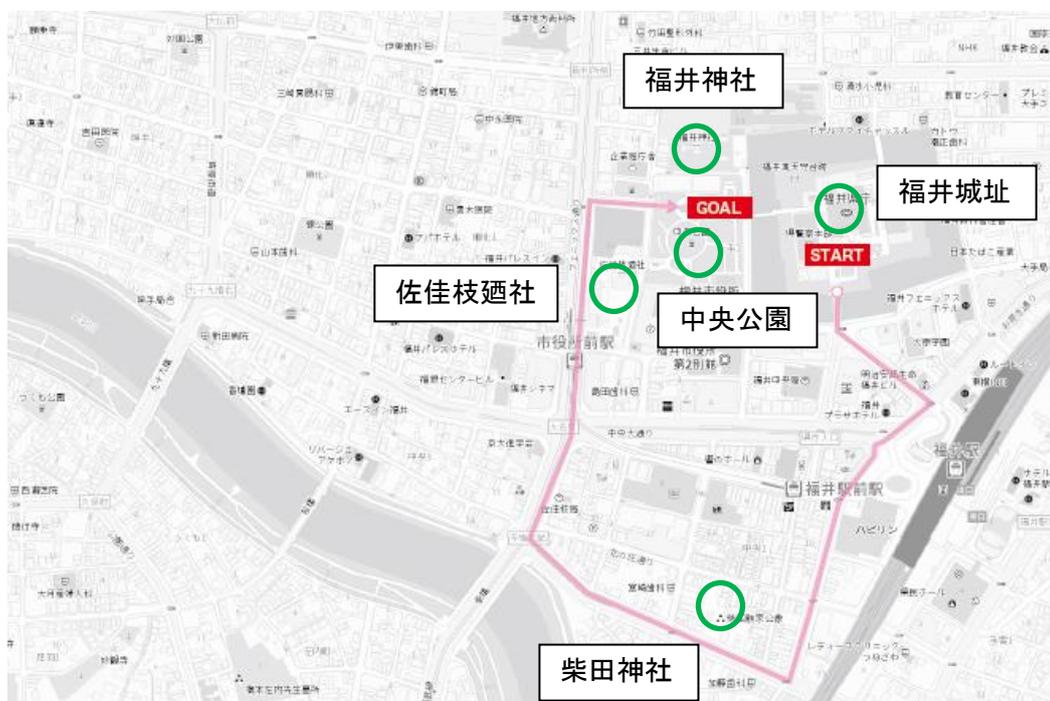


## ii. まちなかの歴史スポットを巡るコース設定と出発時間の見直し

現在の通過するエリアはロケーションや交通事情が優先され、郷土の偉人達を讃える、“祭礼要素”が薄い。より福井の歴史に深く関わりを持ち、地域住民が愛着を持っているものとするため、まちなかの歴史スポットである柴田神社や佐佳枝廻社付近を通るコースとする。

また、現在のコースは、市内の幹線道路を通ることが多く、主要な地点では信号を生かしながら警察官の指示のもと行列を進めている。このため行列が一時的に止まったりすることも多く、観覧者にダレ感を与えたり、また参加者の精神的、肉体的疲労感につながっている。従って、コースは観客、参加者ともストレスフリーで、なおかつ楽しめる要素を盛り込まなければならない。なお、コースについては、今後、警察との協議が必要である。

コース変更と合わせ行列の出発時間も見直し、行列への参加や観覧の前後に県内観光を楽しんでもらう取り組みも行う。



## iii. 参加者が楽しみ中心市街地に人が集う仕掛け作り

時代行列でゴールした後の参加者は着替えに戻るだけで、決められたコースの“歩かされ感”が強く、“達成感”や“充実感”を味わう時間が少なかった。また、これまでは足羽河原がゴール地点となり、そのエリアは賑わうが、近くに楽しめるスポットがなく、回遊性が図りづらい。そこで、ゴール地点を中央公園とし、中心市街地に人を集め、回遊性を高める取り組みを進める。整備が進み、美しい芝生が広がる中央公園は、食や遊びなど様々な催しに適した環境で、賑わいの広場とすることができる。ご当地グルメやマルシェ、季節限定品などの「食」、踊りやスポーツ、縁日屋台などの「遊び」の要素をふんだんに盛り込み、夜までまちなかで楽しめるようにする。近

年は若者の集うエリアが郊外化しているが、中心市街地で遊ぶ楽しさを知るきっかけとなり、多くの若者が集い交流を図るための取り組みも行う。  
行列終了後には、武者や姫などに扮した参加者が、家族や知人と触れ合ったり、最近流行となっているインスタグラム、フェイスブック、ツイッターに投稿する写真を撮る場と時間を提供することも、次年度に向けて非常に大切なものとする。



#### iv. 俳優起用の見直し

これまでの時代行列において、柴田勝家役やお市の方役の俳優は大きな魅力の一つであり、その俳優の人気に集客が左右されてきた。俳優の起用は、地域にとって毎年訪れる楽しみにもなっている一方で、費用的に大きな負担となっており、また人選にも年ごとにばらつきがあるなど課題となってきた。新たな時代行列にあたっては、勝家役、お市の方役は、今後は俳優にこだわらず、文化、スポーツなど様々なジャンルでその時期に活躍する福井ゆかりの人物を招くなど、更なる集客を図る。また、三姉妹は観光大使として事前のPR活動にも活用する。

#### v. 企業参加枠の拡充

地域での盛り上がりを広げていくためには、参加人数を増やし、関連する人々も巻き込みながら進めることが必要である。しかし、行列実施にあたっては、衣装の準備などで多額の金銭的な負担が発生し、単純に隊列を増やすことは難しい。

そこで企業の協力を促し、第32回(平成29年)でも行った企業隊の拡充を図る。しかし一隊を一企業で担うことは、人的、金銭的に負担が大きくなることから、テーマに合わせ、各隊に新たに姫役を設け、企業から派遣いただく仕組み作りを行う。

##### ア. 企業隊の拡充

##### イ. 各隊に姫役として各企業からの女性社員派遣



## vi. 光と音を使った五感に訴える演出

現在の行列は1. 8kmのコースの中で各隊が独自にパフォーマンスを行い、沿道の観客を楽しませている。しかし、パフォーマンスを行う隊は一部に限られ、それ以外の隊はただ行進するだけで変化に乏しい。視察を行った百万石まつりは、有料観覧席を設け、その前でパフォーマンスを行うことで、観客を楽しませる仕組みができています。見て楽しい行列とするためには、行列の途中で見所を作ることが必要であり、演出面の強化を行う。ただし、行列には馬も配置されており危険も伴うため、安全面には十分な配慮が必要である。

- ア. 笛、炎、煙、電気の使用
- イ. 有料観覧席を設け、パフォーマンスエリアを追加
- ウ. 各隊の間に遊撃隊創設（忍者、殺陣、楽器演奏など）
- エ. プロの乗馬者による馬を使った迫力ある演出



## vii. 誰もが参加できる仮装自由な隊列や市民パレードの追加

最近、全国的にハロウィンが大きな盛り上がりを見せている。ハロウィンは海外で子供たちがお化けの仮装をして近隣の家庭を回り、お菓子をもらうというものであるが、日本では独自の進化を遂げ、今や仮装イベントとして子供から大人までが参加する一年の中で最も大きな催事の一つとなっている。時代行列も武者や姫に扮する仮装イベントと言え、潜在的な参加ニーズは少なからずあると考える。しかし、現状では、参加枠は偉人にゆかりのある地域や団体、企業など毎年決まっており、誰にでも参加できる状況にはない。従って、新たに地域住民が参加できる隊列「自由に行列に参加し隊（仮称）」を創設し、地域内外の個人やグループレベルの参加も可能とする。

また、従来の時代行列的な仮装に限らず、漫画・アニメ・ゲーム・映画のキャラクターのコスプレをはじめ、チアダンス・かるた名人・恐竜といったその年の話題となったものや、馬威し・糸崎仏舞い・馬鹿ばやしなどの伝統芸能も参加可能とし、この他にも音楽隊やスポーツチームなど市民パレードのような要素も加え、誰もが気軽に体験できる非日常的な空間と時間を提供する。参加者が地域の枠を超え集い、これを機に交流してもらおう仕掛づくりを行い、出会いの場の創出も行いたい。

### viii. インバウンド対応の強化

在日外国人や訪日外国人観光客は年を追うごとに増加しており、今や重要なマーケットとなっている。外国人には「SAMURAI」、「NINJA」と言った日本文化や、アニメやゲームといった日本のサブカルチャーに興味を持っている人々も少なからずいる。そこで、地元ALTの協力やSNSの活用により、こうした方々へ越前時代行列をPRし、参加を促すことで、まつりの活性化とともに、行列への参加や観覧の前後に県内観光を楽しんでもらう取り組みが加わることで、新たなインバウンド対策とする。インバウンドにおける体験型観光のニーズは高まっており、観光商品として収入を取れる仕組みも検討する。



#### (4) 広報の拡充

これまでも、ポスター、ガイドブック、ホームページなどを作成し、ダイレクトメールやSNS、テレビCM、出向宣伝など積極的に広報を行ってきた。しかし、様々な情報が溢れる現代では、個人に直に伝わる広報手段への見直しが必要とされている。

広報の窓口を一本化して戦略的な広報を実施する。「ふくい春まつり」を観光商品として、広報時期、手段（媒体）、予算を見直し、地元住民にはまつりへの機運を高め、県外へは誘客を促す内容とする。まずは地元住民に参加してもらうための広報を拡充しながら、徐々に県外への広報を充実させていく。若者への広報ボランティアの協力やホームページ上での各観光情報のリンクなど、地域を巻き込んだ取り組みも求められる。また、今後のインバウンドも視野に外国語対応の案内も作成する。

- ①年代ごとの効果の高い広報手段の検討
- ②観光商品も意識した半年前からの広報計画の実施
- ③県内と県外で参加の促し方を変える広報内容の見直し

## おわりに

地域経済は大きな構造変化を迎え、特に地方においては定住人口の減少が進む中、交流人口の拡大による経済活性化を図るため、観光の役割がさらに重要となっている。まして福井市は、5年半後に北陸新幹線開業という絶好の機会を控え、地域一体となった観光への取り組みが求められている。

そのような中、当検討委員会では、「ふくい春まつり」を従来の開催目的に沿って、県外観光誘客を図る上で柱の事業とすべく見直しに取り組んだが、祭り本来の目的や役割を改めて議論した上で、まずは地元住民が参加し、楽しみ、愛し、誇りに思えるものとするところから始めることが、誘客への第一歩であるとの結論に至った。そこで、多くの福井市民が誇りに思い、訪れる、「桜」をシンボルに、新たなまつりのコンセプトと4つのリニューアル案を提示している。

しかし、本報告書では新たなまつりの目指すべき方向性を示したに過ぎず、今後は目的の実現に向け、実行委員会を始めとし、まつりに携わる各々がさらなる検討を重ね、継続性と一貫性をもって本気で魅力ある事業となるよう取り組まなければならない。

今回の提案により魅力あるまつりとなることで、多くの地元住民の共感を得て、まつりへの参加者が増え、街中が賑わい、地域の活性化に繋がれば幸いである。そして、地元住民が参加、体験したことをSNS等で情報発信してもらうことで、県外から福井へ興味・関心を持ち、来る北陸新幹線開業時に来福する動機付けとなってもらいたい。さらに新幹線開業までに、まつりだけではなく、県外客が楽しめる様々な観光商品を作り上げることも必要とされる。

新たなまつりが、福井の伝統と誇りを醸成する役割を担い、地域経済の活性化に寄与し、この先さらに、何十年と次世代にまで繋がるまつりとなることを期待する。

## 検討委員会開催記録・委員名簿

役 職	氏 名	所属、及び役職
委員長	野坂 鐵郎	福井経編興業(株) 社長
委 員	清水 嗣能	(有)ホテルあけぼの 社長 (福井市旅館業協同組合)
	大森 伸夫	(株)オーモリ 社長
	天谷 幸弘	京福バス(株) 社長
	太田 洋介	(株)J T B 中部福井支店 支店長
	大野 仁志	(株)そごう・西武 西武福井店 支店長
	林 明美	(株)福井新聞社 営業局 企画事業部長
	倉田 昌佳	福井信用金庫 営業推進部長
	蓑輪 一範	(株)福井センイ倉庫 社長
	高橋 昭一	福井テレビジョン放送(株) 取締役
	清水 典晃	福井放送(株) 販促企画部 部長
	吉田 昌弘	平和堂アルプラザベル 支配人
	岩崎 正夫	まちづくり福井(株) 社長
	宮崎 和彦	福井商工会議所 専務理事
オブザーバー		
	黒田 慶廣	福井市商工労働部 観光文化局 おもてなし観光推進課長
	小嶋 美智代	(公財)福井観光コンベンションビューロー 事務局長
事務局	嶋田 浩昌	福井商工会議所 理事・事務局次長
	寺川 直輝	福井商工会議所 地域振興部長
	岡田 智絵	福井商工会議所 地域振興部 地域事業課長
	水野 洋人	福井商工会議所 地域振興部 地域事業課 係長

(順不同・敬称略)

## 検討経過

### 第1回検討委員会

日時：平成29年5月31日（水）15：00～17：00

会場：福井商工会議所ビル 会議室D

議題：①当委員会の設置趣旨説明

②ふくい春まつりの概要説明

③越前時代行列の推移と他地域の事例紹介

### 金沢百万石まつり視察会

日時：平成29年6月3日（土）

場所：石川県金沢市

内容：①金沢市内観光（百万石まつり視察）

②金沢百万石行列視察

### 金沢商工会議所事業ヒアリング

日時：平成29年6月29日（木）

場所：金沢商工会議所

内容：金沢百万石まつりについて

### 第2回検討委員会

日時：平成29年7月5日（水）16：00～17：30

会場：福井商工会議所ビル 会議室B

議題：①金沢百万石まつり視察報告

②これまでの意見、論点整理

### 第3回検討委員会

日時：平成29年8月9日（水）12：30～15：00

会場：福井商工会議所ビル 会議室B

内容：報告書（案）について